令和４年度 冬休み明け全校集会の言葉（令和５年１月１０日）

校長　下雅意　一之

おはようございます。そして、新年あけましておめでとうございます。

よいお正月を迎えることができましたか？

１７日間あった冬休みが明け、今日より後期が再開します。

昨年暮れの冬休み前の全校集会では、久野教頭先生が講話の中で大切にしている本校と交流（コロナ中断中）のあるオリックスのある選手のサインを披露してくださいました。そこに書かれた「幸」の字の下の部分が「半」になっていましたが、教頭先生はこの意味を、「しあわせ」までの道のりは長く遠くて、道のり半ばという意味で、まだまだ不十分な自分、半人前の自分、という意味ですね、とサインを書いてくれたそのとき１９歳のプロ野球選手にお声をかけ、これから一歩ずつ前進してプロとして大成の意味ですね、頑張ってください、と激励されたそうです。

この話を聞き、私は、「幸」の「土」の字から横一本線を引くと「辛」という漢字にもなるなと、「幸」という漢字の意味の奥深さみたいなものを感じ、また、幸福を求めるためには、自分自身が道半ばであること(未熟さ）を自覚することの大切さや、また、決めたことに向かっていくときには何か辛抱なり我慢や忍耐を伴うこと、それらの努力の先にようやく一筋の光明（こうみょう）がさすかのように、幸せ「幸福」というものが現れてくるのだろう、というようなことを考えながら聞いていました。

教頭先生の、真の幸福をめざす思いが込められたプロ野球選手のサインのエピソードに加え、「幸せ」とは何かについて考えさせられたとても温かいお話しでした。

次に、生徒指導部長松田先生からは冬休みの生活心得と、新年１月１０日（今日）にはみなさんが元気に登校するようにと、力強い言葉でお話がありました。

昨年暮れの全校集会は、寒い日でしたが、一生懸命に講話を聴く皆さんの姿には頼もしさを感じました。そして、今日、年も新たに、こうして、みなさんが約束どおりに元気な姿で登校し、全校集会を無事できたことが、なによりも嬉しく思います。

あらためて、新年明けましておめでとうございます。

令和５年、２０２３年、うさぎ年（卯の年）が始まりました。

皆さんはこの冬休みをどのように過ごし、新年をどのような思いで迎え、そして今日どのような気持ちで登校しましたか？

お正月は節目でもあります。一年の計は元旦にあり、とも言います。

夢を描いたり目標を立てたり、あるいは願い事をしたりしましたか。

今年の干支（えと）うさぎの年は、うさぎがぴょんぴょんはねるところから飛躍の年と言われています。何か新しいことにチャレンジするとよいとも言われています。

ぜひ、自身の成長と一年の計の実現に向けて、よいスタートをきってほしいです。うさぎにちなみ、

１年生はホップからステップの年になります。

２年生はステップからジャンプの年になります。

３年生は、いよいよ卒業までのカウントダウン。学校生活の集大成と、新たなスタートに向けて、まさに飛躍（ジャンププアップ）の年になります。

そして、これらの計画遂行のためには、なにをおいても心身ともに健康であることが一番大事になります。

新型コロナ感染者数が年明けとともにふたたび増加傾向にも見え、感染拡大も心配されています。

引き続き「学校に持ち込まない、学校に広げない」を合言葉に、感染症に十分注意することと手洗い、マスク着用、三密解消など対策に努めるようお願いします。

何か心配な時には必ず先生に相談してください。

それでは、令和５年が皆さんにとってよい年になることを願って、冬休み明け全校集会の言葉とします。